

暮らしに欠かせない税

旭川市立春光台中学校 一年 石田 竜誠

近年、北海道の夏は暑い。今年は特に最高気温が三十度を超える日もたくさんあり、暑苦しい中での授業が苦痛でもあった。だが、中学校に初めて教室にスポットクーラーが設置された。そのため、とても涼しく快適に勉強することができた。けれど、考えてみるとなぜいきなり中学校にスポットクーラーが設置されたのか。確かに去年も暑く、たくさん生徒が暑いと言っていた気もする。その声がかなったのはとても喜ばしいことだが、このスポットクーラーを設置するためのお金はどこから出てきて、誰のものだったのか。スポットクーラー一つひとつも決して安いわけではないし、それをほぼ全教室につけるとなると当然たくさんのお金が必要になる。僕は気になり、そのお金の出所を調べてみることにした。すると、そのクーラーは税金で買われていると知った。消費税などで税金があることはもともと知っていたが、こんなにも自分の近くに税金が使われているのを知って、驚いた。他にも税金を使っているものはないかと探してみると、学校の机や椅子、教科書、整備されている道路など、たくさんあることに気づいた。そういえば、自分が使っている学校の教科書は無料で配られていたなと思い、税金はこんなに日々生活している上で、自分に関わっているんだと思った。

他に税金はどんな使い方をされているのかと思い調べてみたところ、大きく分けると社会保障、公共事業、教育費、公共サービスの四つだということがわかった。社会保障では、年金、医療、介護、少子化対策などに税金が使われていて、僕が住んでいる旭川市では中学校卒業までは医療費がかからない。なので、僕が風邪をひいて病院で診てもらったときもお金がかからないので、とても良いと母が言っていた。次に、公共事業は道路や上下水道などの整備に使われている。教育費では、学校の校舎、机や椅子、教科書など他にもたくさんあった。学校のものには税金が使われているものが多いので、これまで以上に大切に使うと思った。最後に公共サービスでは、警察署や消防署、ごみの収集などがある。税金がなかったら、救急車を呼んだり、ゴミを回収してもらっただけでもお金が取られるので、税金はなくてはならないと思った。

僕は、今まで税金と聞くと「勝手に取られていくもの」というイメージだった。どちらかというと良いイメージではない。しかし、税について調べていくうちに、住みやすい日本にするためになくてはならないもので、「平等に僕らに返ってきているもの」だと感じた。

僕たちが健康で快適に学び、安全に生活しているのは当たり前ではない。みんなが払った税金があるからこそ、この日常があるし、未来へつながっている。これからは少しでもみんなのためになっていると思うと、税金を支払うということへの意識が変わると思う。